

# 平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 9 月 20 日  
枚方市立楠葉中学校

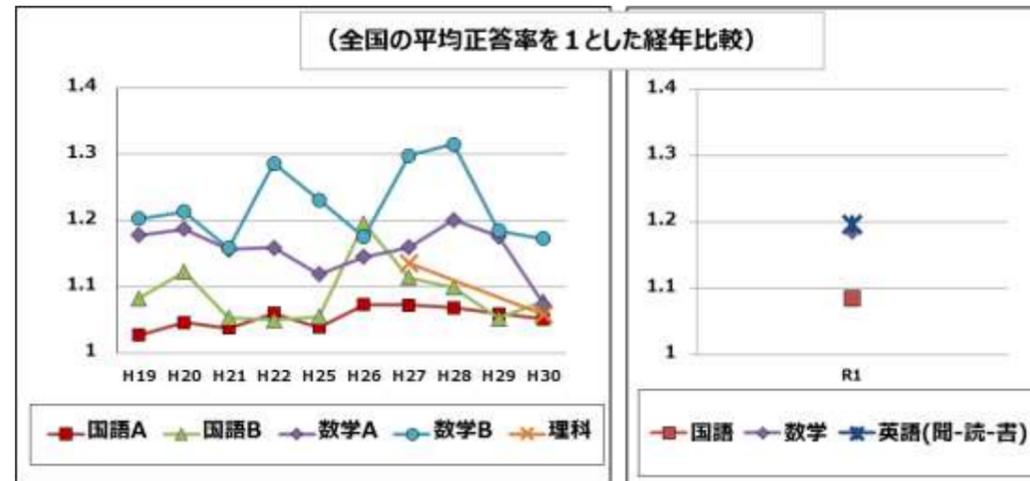
文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

## 【全体概要】

### 学力調査の結果

※調査結果について  
教科や出題範囲が限られていることから、  
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。  
（※今年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）



対全国比 (全国を 1)	
国語	1.09
数学	1.19
英語 (聞-読-書)	1.20

### <学力調査結果の概要>

#### ○国語について

→全体を通してよくできていることから、基礎的な学力は身につけていると考えられる。課題としている、「書くこと」に対しても、少しずつ成果として結果に表れている。

#### ○数学について

→全体を通してよくできていることから、基礎的な学力は身につけていると考えられる。

#### ○英語について

→全体を通してよくできていることから、基礎的な学力は身につけていると考えられる。しかし、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のそれぞれの分野で設定されている自分の意見を英語で書くという設問ができていないことが顕著にあらわれている。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。

※平成 23 年度は中止(東日本大震災)、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

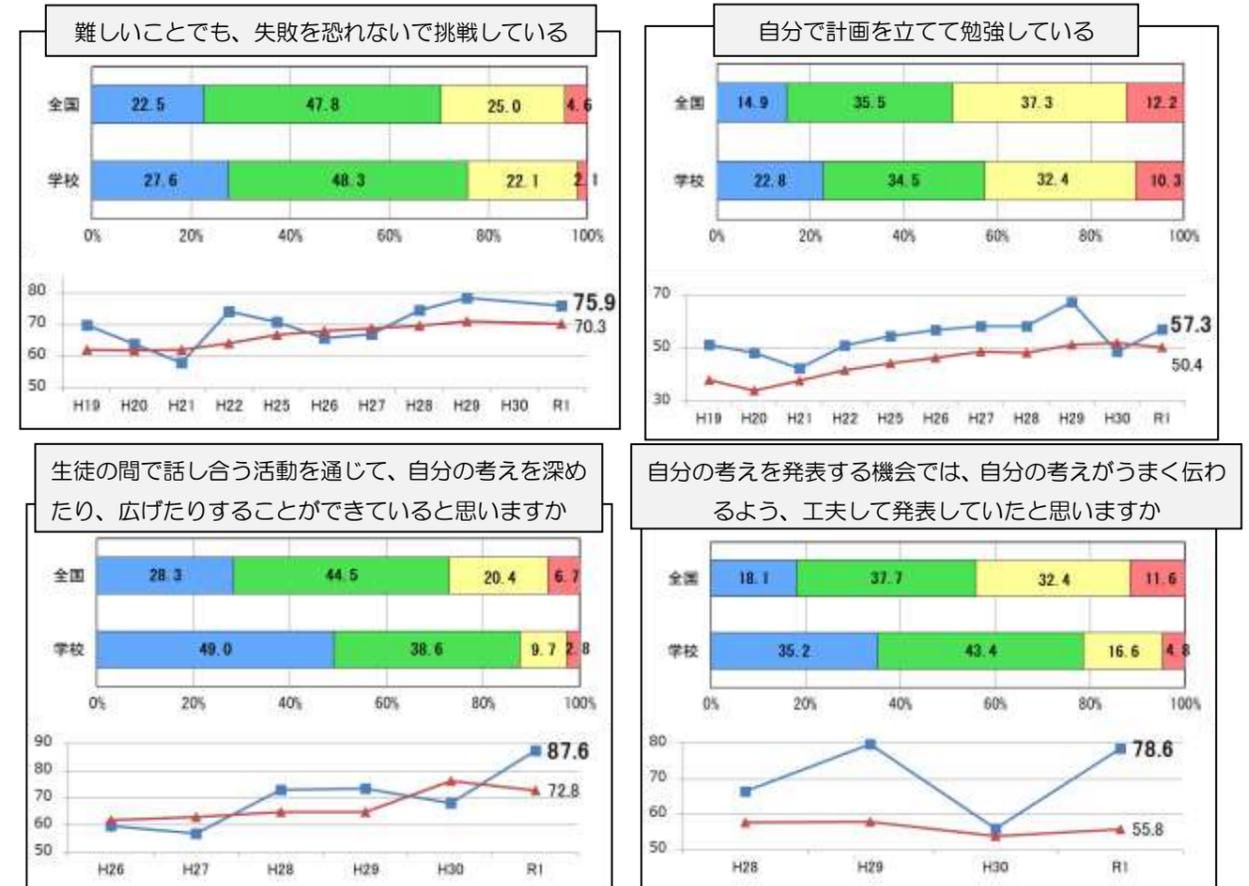
※英語の「話すこと」調査は、全国で実施していない自治体がある等、【参考値】として公表されることから、対全国比は掲載していません。

## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国  
■ 本校



### <質問紙調査結果の概要>

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」の質問に「当てはまる」と回答した生徒は全国平均を上回ってはいるが、本校の課題である。授業については「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」の肯定的回答は高いことから授業改善の成果を感じる。しかし、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していたと思う」に「当てはまる」と回答したのが全国平均は上回っているが、低い。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしています」の肯定的回答は低く、自主的に学習をしていると感じている生徒は少ない。

## まとめ

学力調査の結果から基礎的な力については、全体においても全国平均を上回っている。また、記述式の正答率は国語に関しては成果が見られるが、英語で自分の意見を書くということには課題がある。しかし、授業での話し合い活動への肯定的回答が多いことから授業改善の成果を感じる。学習習慣について、「自ら学ぶ」姿勢は課題であるので、家庭とも連携して取り組む必要がある。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

# 【詳細について】

## 教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】 広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える

	正答率	無解答率
本校	79.3	4.8
全国	77.8	7.9

(考察)  
 普通の授業で「書くこと」を意識させ、課題として取り組んでいる結果が出ていると思われる。書く量もさることながら、書く内容についても細かく指示を出していることの積み重ねが結果として出ている。

<数学>

成果や課題があった設問

【成果】 図形領域で平行移動

3 下の図で、△DEFは、△ABCを矢印の示す方向に平行移動したものです。△DEFは、△ABCを矢印の示す方向に何cm平行移動したのですか。その移動の距離を求めなさい。

	正答率	無解答率
本校	88.3	0
全国	83.6	0.7

(考察)  
 平行移動の意味がきちんと理解できている。

【課題】

「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く。

	正答率	無解答率
本校	64.8	1.4
全国	56.8	5.6

(考察)  
 インターネットの普及により、普段手紙やハガキを書くという生徒の割合が少ない。手紙の存在はとても大切なことは分かっているが、実用することとは結びついていない。高校受験の際にも、インターネットでの出願が増えているので、封書やハガキに宛名や宛先を書く機会が持てない。このことから、国語科での授業で取り上げ、実践できる力を身に付けさせることが必要である。

【課題】 関数領域でグラフから事象に即して解釈

6 関数A、関数B、関数Cについて、関数Aは、関数B、関数Cについて調べたことを、次のように表にまとめた。

関数Aが得た値	関数B	関数C
有量	400 L	300 L
1年間の電気代	80000円	100000円
1年間の電気代	13000円	4500円

関数Aを代入して関数Bの値を求めると、関数Cの値が求まる。関数Aを代入して関数Cの値を求めると、関数Bの値が求まる。関数Aを代入して関数Bの値を求めると、関数Cの値が求まる。関数Aを代入して関数Cの値を求めると、関数Bの値が求まる。

	正答率	無解答率
本校	51.0	1.4
全国	38.8	0.3

(考察)  
 正答率が51%であり、問題文を読んで内容を理解し、一次関数と関連付けてとらえるのが、難しかったと思われる。総費用や1年間の電気代の意味を理解できていない。今後、一次関数の文章問題を繰り返し練習したい。

<英語>

成果や課題があった設問

【成果】

教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる



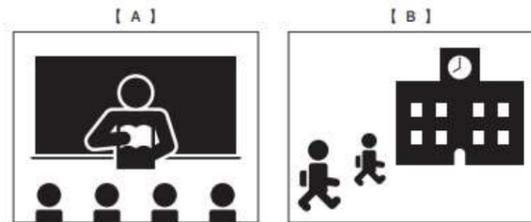
	正答率	無解答率
本校	96.6	0.0
全国	88.6	0.1

(考察)  
 相手の言うことをしっかり集中して聴く、という取り組みの積み重ねがこのような結果につながったと考えられる。今後も人の言うことにはしっかりと耳を傾け、聴くという姿勢を徹底させ、1つでも多くの英単語が聞き取れ、理解につなげさせていくことが必要である。

【課題】

与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で表きなさい。



※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (、や ? など) は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

	正答率	無解答率
本校	4.8	4.1
全国	1.8	8.3

(考察)  
 自分の意見や考えを英語で書くことが求められている。その問題形式に生徒が慣れていないため、主語動詞から始まる文で書けている生徒の割合がかなり少なかった。高校受験では、このような問題が出題されることが多いため、今後は書き方や語数制限付きの問題に慣れさせ、書く力を身につけさせることが必要である。

# 質問紙に関する調査

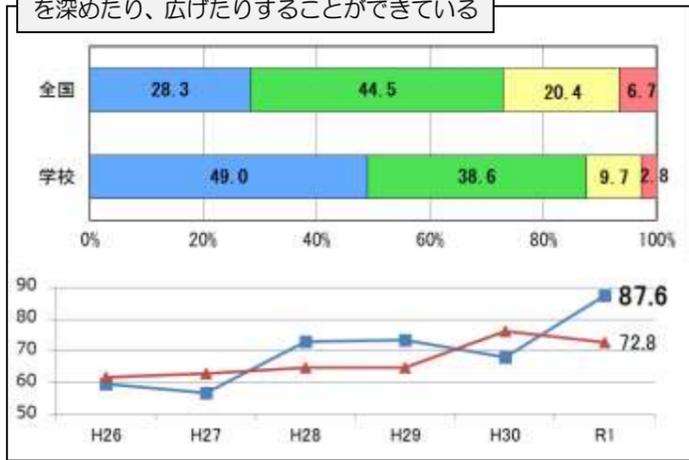
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

## 【成果のあった項目】

朝食を毎日食べている

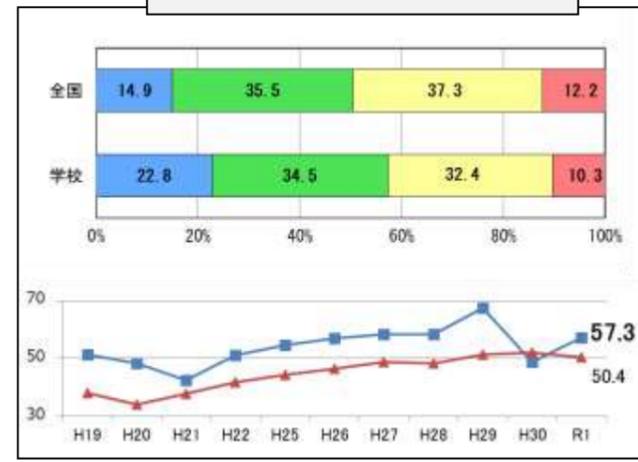


学級での話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



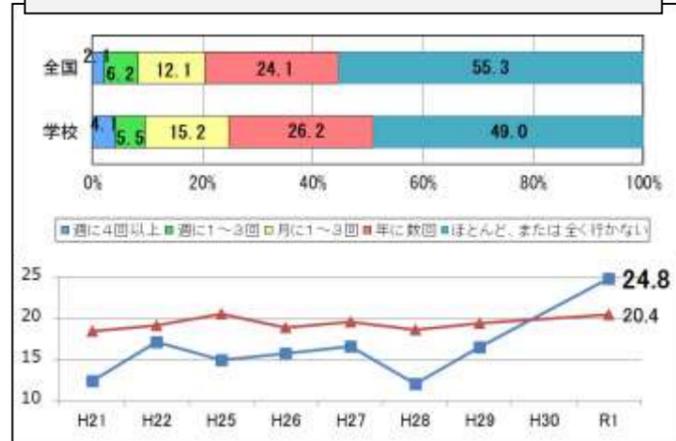
▲ 全国  
■ 本校

自分で計画を立てて勉強している



(考察)  
 発表の際の工夫をしていると答える生徒は全国平均よりは高いが、まだまだ課題だと感じる。また、自分で計画を立てて勉強している生徒に関しても同じように全国平均を上回ってはいるが、課題を感じる。これらを課題とし、取り組むことで、失敗を恐れず挑戦する姿勢を育てていきたい。

昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか



(考察)  
 「朝食を毎日食べている」の肯定的な回答の生徒がかなり多く生活習慣はしっかりと身につけている。そして、授業では学級での話し合いの中で自分の考えを広げることができていると感じている生徒が多く、そのような場面が多く授業で取り組んでいる成果だと思われる。また、学校図書館に行く割合が上昇していることから、朝読書による読書習慣が定着していることや学校司書の働きかけや図書委員の啓発活動の成果だと感じられる。

## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

- 授業改善について
 

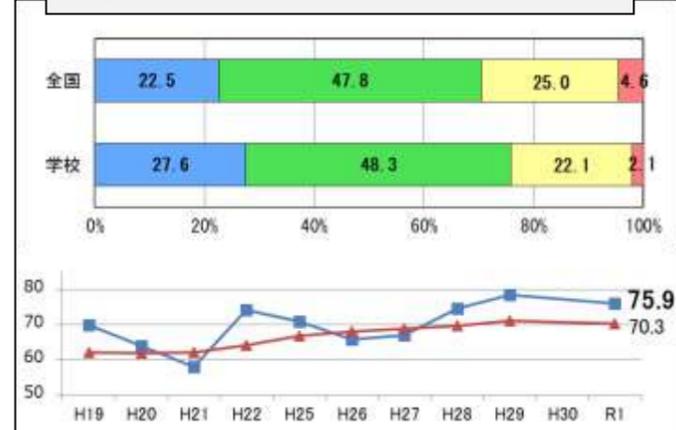
生徒の話し合う活動に対する肯定的な意識が高まっていることから、授業改善の成果が見られるので、今年度の研究テーマである『言語活動を取り入れた課題解決型学習を目指して』を継続して進めていきたい。また、話し合った結果を発表する場を設け、資料や文章、話の組み立ての工夫などに重点を置き、発表の質を上げていくようにしていく。また、これらの取り組みを教員間で交流するために、授業参観を行う。他校への授業視察も行き、授業力の向上を図る。
- 学習規律について
 

全教職員が同じラインにたって学習規律の徹底を図る。聴く姿勢や授業中の声の大きさをものさしで図示したものを各教室に掲示し、啓発すると共に教職員でそれに沿って指導を行っていく。また、授業開始の挨拶を工夫し、落ち着いた状態で授業が始められるように努めるとともに、生徒会を活用した啓発活動を行う。また、話し合い活動や発表時のルールを学校全体で共有し、生徒が安心して取り組める環境づくりを進めていく。
- 家庭学習について
 

テスト前学習計画表を配布し、自分で課題を考え、目標を立てさせる。それをテスト結果後にふり返らせる。この取組に対しては今後も検討していく。自主学习ノートを学校全体で取り組んでいるが、その取り組みの啓発を行うとともに、保護者への協力をお願いしていく。

## 【課題が残った項目】

難しいことでも失敗を恐れないで、挑戦している



授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していた

